

令和4年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表1 令和4年度ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(定点)

	調査地点(供試個体数)	保毒虫率(%)	(昨年度)
東部地域	加西市別府町 (94)	0.0	(1.1)
	加西市中野町※ (94)	1.1	(3.2)
	小野市※ (94)	2.1	(—)
	丹波市山南町※ (94)	1.1	(1.1)
	加古川市志方町 (83)	2.1	(2.4)
	平均	1.1	(2.1)
西部地域	神河町 (48)	0.0	(3.2)
	宍粟市山崎町 (94)	2.1	(1.1)
	佐用町 (94)	0.0	(0.0)
	上郡町 (94)	2.1	(5.3)
	平均	1.1	(2.1)

供試虫: 令和4年5月23～25日に小麦ほ場から採取した幼虫を供試。
 検定方法: 簡易エライザ法。
 ※採集のためのほ場確保が難しくなったため、昨年度もしくは今年度から定点として採用。

表2 令和4年度ヒメトビウンカ(第1世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(その他の地点)

	調査地点(供試個体数)	保毒虫率(%)	(昨年度)
西部地域	姫路市香寺町 (94)	4.2	(2.1)
	たつの市新宮町 (94)	1.1	(2.1)

供試虫: 令和4年5月23日、24日に小麦ほ場から採取した幼虫を供試した。
 検定方法: 簡易エライザ法。

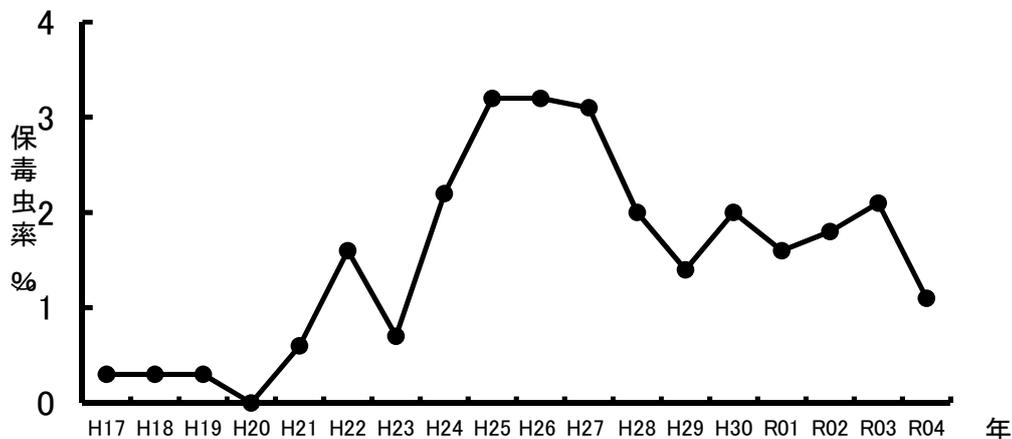


図 兵庫県におけるヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

第1世代虫の保毒虫率は、ここ数年2%程度で推移しており、本年は昨年比較的高かった地点の保毒虫率が下がり、平均で1.1%になった(図)。イネ縞葉枯病多発の目安となる5%以上を示した地点はみられなかった(表1、2)。

小麦で増殖したヒメトビウンカは成虫になって水田へ侵入し、イネ縞葉枯病を引き起こす原因となる。

水稻生育初期の発病株はその後の感染源となり、出穂期の発病と保毒虫の増加、さらには翌年の発病につながるため、できる限り早く抜き取り、感染拡大を防止する。詳しくは、病害虫防除所webサイト「イネ縞葉枯病防除マニュアル」ならびにYouTube「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」を参照すること。

・「イネ縞葉枯病防除マニュアル」

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/themes/pest/pdf/aside2-2.pdf>)

・YouTube「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」

(<https://www.youtube.com/watch?v=yeVWNWSuL8U>)